

# 2024年度 入試問題分析シート

一橋大学

前期日程

科目	数学
----	----

総括

試験時間	120分	難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
満点(配点)	130~330点	分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

## 〈総論〉

今年の難易のレベルは昨年と同程度であり、必要とする計算量はやや減少した。このような試験においては、計算ミスを少なくして、最低でも3問は正答したい。

なお、以前は高いレベルの出題が多かったことを考えると、このような傾向が続くとは考えにくく、来年は「これまでの一橋大数学」に戻る可能性は高い。

## 〈特記事項・トピックス〉

一橋大学の定番通り、**1**は整数問題、**5**は確率であった。また微積分、空間座標における計量が昨年に続けて出題された。残りの1問は多項式の計算に関する問題であった。

## 〈合格への学習対策〉

ここ2年易しい出題が続いているが、それ以前の一橋大学の数学は、文系としては難しいものであり、計算力、発想力および正確な論証を必要とする問題が目立つ。基本事項を理解した上で、問題演習を繰り返し、問題を解く発想力と結果を正しく導き出す計算力、および解答としてまとめる論述力を養う必要がある。特に、頻出分野の整数、確率、空間の計量を含めて図形問題には十分に力を入れて学習しておいた方がよい。

## 設問ごとの分析

問題番号	出題形式	範囲	分野・テーマ	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
<b>1</b>	記述式	B・A	数列の和, 整数	2つの正の整数 $m, n$ に関する積の値から $m, n$ を決定する整数問題で、連続する2整数の関係に着目すると解決する。	標準
<b>2</b>	記述式	II	積分法	条件を満たす2つの放物線によって囲まれる部分の面積の最小値を求める問題で、一橋大数学で定番の相加平均・相乗平均の不等式を利用することになる。	標準
<b>3</b>	記述式	II	式の計算	4次式を2つの2次式で割った余りの条件から、4次式を適切に表現できれば、そのあとの計算は一本道である。解き切りたい問題である。	やや易
<b>4</b>	記述式	B・II	ベクトル	AC, BDの中点が原点であることを見抜けば、ひし形の条件および面積は簡単に表される。そのあとは、微分または対称式の計算で済む。	標準
<b>5</b>	記述式	A	確率	円に内接する正多角形に関する確率であるから、図形的な性質を上手に利用できるかが問われる。余事象を考えると処理が簡単になる。	やや難

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階【難・やや難・標準・やや易・易】で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。